

2019

ぶうげん

2
月号

No.306

びりあ

ホームページ <http://www.hahashouchu.ogasawara.ed.jp/>

特別な教科「道徳」の実施に向けて

中学校 副校長 西 伸一郎

道徳の時間は、これまでは国語や算数(数学)などと同じ「教科」ではなく、特別活動などと同じ「領域」という位置付けでした。それが小学校では平成30年度から実施、中学校でも平成31年度から特別の教科「道徳」に変わります。

道徳が教科化された理由は、いくつかありますが、その中の一つは、いじめの問題です。児童生徒たちを、いじめの加害者にも、被害者にも、傍観者にもしないために、「いじめは許されない」ことを道徳教育の中でしっかり学べるようにする必要があるからです。もちろん、道徳教育だけで解消できる問題ではありません。

しかし、様々な題材を通して、それらの問題を自分のこととして考え、議論して学ぶことが大切であると考えます。こうした学びは、いじめという問題だけではなく、道徳教育の目標である「自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」ことそのものにつながります。

道徳が特別な教科になることで変わる点は、主に次の2点です。①「道徳科に検定教科書が導入されること」、②「評価対象になり、数値評価ではなく、児童生徒の道徳性に係る成長の様子を把握すること」です。以前は、道徳の授業が現場の教員の裁量に任されることが多く、場合によっては十分な道徳教育ができていたと言えない状況もありました。それが今回「特別な教科」となることで、指導目標の設定や生徒の評価、授業数の確保など、指導として適切に行われると期待されています。

そこで、いま一番の関心を集めることが、道徳の評価方法です。各教科の授業とは異なり、あくまでも、個々の児童生徒に注目して、以前よりどれだけ道徳的成長があったかを見取ることになります。従って、1回1回の授業の中で、全ての児童生徒についての評価を意識して変容を見取るのは難しいため、ある程度の期間の中で児童生徒の道徳的成長を見取り、評価していくこととなります。

本校では、児童生徒の発達段階に応じて「考える道徳」、「議論する道徳」の実践を行い、話し合い活動を中心に位置付けています。そして、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己(人間として)の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力を身につけた児童生徒の育成を図っていきたいと思います。

学習発表会

小学校担当

今回の学習発表会も1～6年生のブースに分かれて様々な教科の学習の成果を発表することができました。母島小学校の学習発表会は1年間の学習の記録を発表できます。「4月当初はこんな文字を書いていたけれど、今はこんなにきれいに書けるようになった。」「まとめの文章に自分の考えを書けるようになった。」など、学年当初から現在にいたるまでのそれぞれ個人の成長の様子を見ることが出来ます。

総合的な学習の時間の発表会では3年生から6年生までが発表しました。どの学年もパワーポイントを活用し、見ている方々に分かりやすいようにと工夫していました。

3年生・・・西浦校外学習で体験したこと、学習したことを発表しました。発表の内容に合わせて自分で写真を選び映像で映しました。

4年生・・・バリアフリーについて学習していく中で、お年寄りが日常の生活の中で不自由な思いをしていることに気付き、実際に体験したことをまとめ発表しました。

5年生・・・南崎のネコ柵について学習したことを発表しました。鳥を守るためにのら猫を捕まえる作業の手順を分かりやすく説明し、作業をしている人の思いも伝えることができました。

6年生・・・タコノ葉細工について発表しました。映像とともに、実際の作業を目の前でやって見せるという工夫もありました。



子供の成長を感じる楽しみ

中学校担当

今年も数多くの展示が並び、また学年ごとに配置の工夫がされ、とても豪華なものになりました。保育園から小学校、中学校、そして、卒業生の作品やPTAの陶芸や島民の作品も並び、まるで母島小中学校で行われた島の美術館、博物館のようでした。

私にとっては、今回で5回目となる学習発表会。1年目はただ鑑賞するだけだったのが、今では、あの子がこんな作品を作れるようになったのか、こんなことを考えるようになったのかと、児童生徒ごとの成長を感じながら鑑賞するようになり、子供たちの成長の凄さを感じる1日になりました。子供たちの方も後輩の作品を見て、昔に学習した内容を思い出して懐かしがったり、先輩の作品を見て未来に学習する内容に興味をもったりしながら鑑賞をしているようでした。

中学校の学年展示は、毎年、各学年の総合の時間で学習したものを発表しています。1年生は、平島校外学習。2年生は、硫黄島訪島事業。3年生は、修学旅行。素材となっているものは、毎年同じですが取り組んでいる内容やテーマは毎年の生徒によって異なるので、生徒によって興味があることがわかったり、まとめ方に個性が見られたりするのが見どころになっています。

内地に比べると、他者の作品に触れる機会が少ない子供たち。今回の行事を通して、友達や先輩、後輩の作品からインスピレーションを受け、さらに素晴らしい作品を作るようになるのだろうなと思い、来年に向けてまた楽しみが増えた学習発表会でした。

先日、小笠原小学校の道徳地区公開講座で発達障害についてお話しさせていただきました。「発達障害ブーム」というのは小笠原でも例外でないようで、この言葉を見聞きされたことのある方もたくさんいらっしゃるようでした。そして、「発達障害」という言葉と合わせて「自己肯定感（自分自身を肯定的に受け入れる感覚）」という言葉を知っている人の数が多かったことに驚きました。せっかくなので、今日はこの二つの言葉について感じることを文章にしたいと思います。

「発達障害」という言葉の本質の一つは、自己責任論を解体するところにあります。つまり、社会で上手く行っていない様子を「親の育て方が悪い」「子供の努力不足だ」と決めつけてしまうことは軽率である、と指摘することです。ですので、インターネット等でこの言葉を調べると「お母様のせいではありません」「お子様が悪いわけではありません」といった優しい言葉があふれています。そして、たいてい「大切なことは自己肯定感を高めることです。たくさん褒めてあげましょう。」といった言葉が添えられます。これらはとても聞こえの良い言説ですが、実はここにも落とし穴があります。それは「うちの子は発達障害かもしれない」と不安を抱えている方と同じくらい「私の褒め方が下手だから、うちの子は自己肯定感が低いんです」と責任を感じている方が増えているのです。

「発達障害」という言葉も「自己肯定感」という言葉も、子供の発達を理解する上での一つのツールに過ぎません。それも、方程式のように正しい答えを導くことのできるものではないところが、これらの言葉の注意事項です。

スマホ一つで、専門的な言葉に触れることのできる世の中です。もし、発達に関わる「言葉」に触れ、理解に戸惑っている方がいらっしゃいましたら、お気軽にお声掛けいただけると幸いです。

古の心

例年、3学期の始業式当日に行われた書き初めの会。昨年は体調不良で欠席の児童生徒が多かったのだが、今年度は欠席者が少なく、天候にも恵まれた中、粛々と会を進めることができた。

「字には人となりが出る」と言うが、「書」には、書いたときの息遣いや想い現われる。墨汁を含ませ筆を丁寧に利ぎ、半紙の上を走らせる。一画一画にその時の集中力や緊張感が具現化される。小学1～2年生の作品には全体的に「集中力」が伝わってきた。線が真っ直ぐで乱れない。小学生は堂々と書き上げている作品が多かった。中学生は、「緊張感と集中力」がよく伝わり、各々の個性が作品によく感じられた。皆、どこを工夫すれば手本の作品に近づけるのかをよく考えながら書いた、その試行錯誤の様子が伝わってきた。

書き初め会の翌日に百人一首大会が行われた。今年度は小中分かれてのトーナメント制を導入、各々で勝ち上がった者が決勝戦で競う形式だ。例年に比べ小学生のレベルが格段に上がっていたが、決勝戦では中学生が辛勝し、年配者としての面目を保つことができた。また、今年度の大会は黄札の20首。個人的には気に入っている一首がある。「大江山いく野の道の遠ければ まだふみもみず天の橋立」有名人の和泉式部を母に持つ小式部内侍が詠んだ歌だ。ある歌会で上司に「お母さんがいないけど歌会で詠む歌はどうするの?」といった嫌味な発言を受け、それを巧みに返したのが上記の歌である。部長のセクハラ発言を、ずばり自分の才知で切り返した新入女子社員といったところだろうか。100首のうち43首は「恋の歌」が選ばれている百人一首の中では非常に稀有な歌と言える。世情を映し、今も昔も変わらぬ人々の「心」が読まれている百人一首。時を越えても尚、私たちを楽しませる「歌」の心意がそこにはある。競技のために歌を覚えるだけではなく、百人一首を通じ、子供たちにも是非その世界観を楽しんでほしい。

2月の生活指導

生活目標

「感謝の気持ちを表そう」

- ・いろいろな学年の人たちと話したり、遊んだりしよう。
- ・感謝の気持ちを言葉にしよう。
- ・卒業行事を成功させよう。

安全指導 4日(月)

「校舎内での過ごし方」が重点指導目標です。三学期も後半です。学習・生活両面でまとめをしていく時期です。落ち着いて学習し、安全な生活が送れるように、休み時間のときなど、校舎内での安全な過ごし方やルールについて指導します。

避難訓練 予告なし

校内での火災発生を想定した避難訓練を行います。今回は、児童生徒への避難訓練開始時刻の予告はしません。

緊急時に落ち着いて、素早く身を守るための行動をとれること等、普段の訓練の成果を確認する機会とします。



小学校音楽発表会

1 日時

平成31年2月13日(水)(音楽室)

開演 午後1時20分 終演 午後2時10分

2 プログラム

- (1) 始めの言葉(5年)
- (2) 校長先生のお話
- (3) 発表

4年	歌 「もみじ」 合奏「茶色の小瓶」
3年	歌 「とどけようこの夢を」 合奏「パフ」
2年	歌 「夕焼け小焼け」 合奏「子ぎつね」
1年	歌 「ちびっこカウボーイ」 合奏「かえるのうた」
5年	歌 「静かにねむれ」 合奏「威風堂々第1番」
6年	歌 「星の世界」 合奏「風を切って」

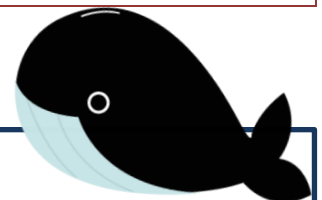
(4) 終わりの言葉(6年)

是非、おいでください。



2月の主な行事予定			16	土	
1	金		17	日	
2	土		18	月	
3	日		19	火	朝礼(保健指導)
4	月	朝礼(安全指導)	20	水	パンの日
5	火	(小6)中学校体験入学	21	木	
6	水	(中2)職場体験始	22	金	(小)6年生を送る会㊦
7	木		23	土	
8	金	(中2)職場体験終 (小)新入生保護者説明会	24	日	
9	土		25	月	(中)期末考査1
10	日		26	火	(中)期末考査2 星空観察会
11	月	建国記念の日	27	水	(中)期末考査3 星空観察会㊦
12	火	中朝礼 (小)新入生体験入学	28	木	
13	水	(小)音楽発表会			
14	木				
15	金	(小)6年生を送る会			

S C 在島



◆PTA校外部ホエールウォッチングについて◆

○平成31年2月9日(土)午前9時00分から12時00分まで

※予備日①2/16(土)②2/17(日)③3/2(土)④3/3(日)